

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

生涯を貫く感動に

出遇うこと



早や十一月の声を聴けば、余計世事に追い立てられるように感じます。
しかしそうした世間のあり様とは裏腹に、せつかく先人蓮如上人が遺してくれた「仏法の事は いそげ いそげ」の言葉の真意を受け取らねばなりません。
蓮如上人は折にふれて、「仏法については、明日(将来)ということがあつてはなりません」と常々に語ったといひます。なぜなら今いただいているいのちの主役は私だからです。決して私のいのちを他人が替わってくれないからです。

秋から冬にかけて営まれる「報恩講」は浄土真宗独自の、そして一番大切とされる親鸞聖人(一一七三〜一二六三)のご命日(旧暦十一月二十八日、新暦一月十六日)にあたり心からの報恩感謝を表す法要です。

報恩とか感謝ということは、人に言われたからそうするというものではありません。自らがその人から深い感動を覚え、出遇いの不思議と慶びに領くことがなければ形だけのものに終わってしまいます。

親鸞聖人は二十九歳の時、生涯の師と仰ぐ法然聖人に出遇って、それまでの仏道が人間を磨くことによってしか悟りに達することができないと説かれた仏教から、すべてのものがもれなく平等に救われる真の仏道は、完全に熟成された仏(阿弥陀如来)のはたらき(それを名号という)に帰入する(仰ぎ委ねる)ことであるという念仏道に目覚めたのです。

その大転換の仏縁に遇えたことの慶びを親鸞聖人は「教行信証」の冒頭に、次のように述べられています。

『「ああ、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし」(ああ、この大いなる阿弥陀如来の誓願、撰め取って捨てない)は、いくたび生を重ねても遇えるものではなく、まことの信心はどれだけ時を経ても獲ることはできない』と。

そして「値ひがたく」「獲がたし」という「かたし」という箇所「叵」という漢字を使われています。この「叵」は「不可なり」という意味の字で、わが人生でこの仏法に遇うことは不可能なのに只今、その法のはたらきに出遇ったことの最大限の驚きと感動の表現なのです。

そしてこの感動がその後歩む人生の「主軸」となって、

「ことに如来の恩徳の深きことを知んぬ」と、仏恩報謝のお心を深く吐露されました。

よくよく考えてみれば、朝から晩まで世間の道、それは他との比較の中に閉じ込められて、勝った負けるとか、多いとか少ないとか、分別心に流されて空しく過ぎ行く我がいのちに向かつて、かねてより願われ、拯わんとの大いなる如来さまのお慈悲がすでに届けられていたということです。

ここで、親鸞聖人が阿弥陀さまの真実に出遇った「すくい」とはどういうものであったかを学んでみましょう。

それは「撰取不捨(せつしゆふしや)」のすくい、つまり「撰め取って捨てない」という阿弥陀さまのはたらきこそ間違いのないものと信じたということです。

あらゆる宗教は「すくい」が説かれます。インドの、ヒンズー教は輪廻の考えから「動物でなく、また人間に生まれる」という救いを説きます。キリスト教など一神教の多くは「天国に生まれる」と説きます。仏教は「仏に成る道」を求めますが、親鸞聖人の「すくい」は何でしょうか。

親鸞さまの書かれた文の中で眼につくのは「撰取不捨」という言葉です。「撰取」と

は、未来・死後のことを意味する言葉ではなく、今の拯い(すくい)です。「不捨(すてない)」という言葉も、未来・死後の言葉ではありません。「すくい」という漢字には「救う・済う・拯う」などがありますが、親鸞さまの使用される字は「拯」の字を大事にしています。例えば「弥陀の願力を説きて、よろずの衆生を恵み拯はんと欲しめずを、本懐(ほんがい)とせんとしたまふ」(一念多念文意)

また「済う」という事例では、「広く貧窮(びんぐう)を済ひて、もろもろの苦を免れしめ」(無量寿如来会などに見られます)。そして漢字のしめす意味を学ぶと、「救」の字は左が「求め」、右が「行う」という形の漢字で、要求に対して急いで行く助けです。「済」の字は左がサンズイ(水・川)で、齊は、「ととのえる」で、暴れ水を静かにする意味を持つ「すくい」です。「拯」の字の左は手で、右の蒸は、蒸気のように上に上がる意味です。手と蒸の二つで、「引き上げる」という意味の「すくい」です。

私どもの場合、不要なものは捨てますが、阿弥陀さまの撰取不捨という拯いは、不要と、そのまま放置するのではなく、「転ずる」というはたらきがあるのです。

長い人生には、喜怒哀楽がありますが、悪い思い出を、無視また抑えるのではなく、「転じる」ことが出来れば、悪かったことも、プラスになって無駄でなくなります。すべてを捨てないという意味で「転じる」は最高の生き方になります。 「円融至徳の嘉号(名号)は、悪を転じて、徳を成す正智(しょうち) (教行信証総序)とは、何んと尊く、心輝くお言葉でありましょうか。

【寺灯雑記】

○サヘル・ローズさんの講演に感動
10/19

・第三十一回中原寺文化講演会開催報告

女優 サヘル・ローズさん

講題：「出会いこそ生きる力」

左記は講演後に寄せられたアンケートの感想の一部を掲載しました。

※「他人の幸せを嬉べる」「抱擁の大切さ」。

自らを振り返って心が痛み、胸に沁みる話
しでした。 (二十代男性)

※宗教は違えど人間にとって大切なものは
同じだと感じました。

思春期の中学生で、親との関係に悩んでい
る子供にも聴かせたい内容でした。

本当に感動致しました。
有難うございます。 (三十代男性)

※どんな体験も前向きに、まっすぐに受け止
め、先に進むもうとする生き方がステキすぎ
ました。私も今一度、自分を見直すたなお
ろしをしてみたい。 (五十代女性)

※私の住む市川で、毎年立派な講師をお迎え
になり講演会を開催して頂き感謝です。

三十一回目すばらしいことです。色々大変
なことがありでしように…。私も数回参
加させていただきました。すべての皆様が
生まれてよかったと思えるような社会に
とおっしゃっておられました。

大きなご苦労の中、その苦労を糧に、今度
は自分と同じような方を助けたいと活動
されるお姿に感動いたしました。自分ので
きることを、皆やらなければと思わせる力
に満ちていました。 (六十代女性)

※経験・体験から出て来るサヘルさんの言
葉は重い。感動しました。

自分の弱みを見せてもいいとの言葉にホ
ツとしました。 (七十代女性)

※彼女の苛烈な人生経験に言葉を失った。
そしてそんな人生から人を思いやる人に
育った彼女に感動した。エールを送りた
い。 (七十代男性)

※浄土真宗では「信心を獲得する」ことで
あり、信心Ⅱ「自覚を持つこと」だと思
っています。

サヘル・ローズさんの話を聞いて「自覚
を持つこと」とはどういうことかを教え
てもらった気がします。大変ありがとう
ございました。 (四十代男性)

※テレビでは存じていましたが、こんな
きびしい人生を歩いてきていらしたのか
と涙がとまりません。いろんな出会いに
よって本来の姿でご活躍なさっているこ
とに心からうれしく思います。これから
も大いに応援させていただきます。

私もこれからの人生、世界のこと、身の
回りのことを深く学び、少しでも役に立
っていったらと力をもらいました。

ありがとうございます。 (六十代女性)

○築地本願寺で千葉組「連研」修了式
10/19

二年間にわたり二か月に一度の割合で行
われていた第八期千葉組連続研修会(門徒推
進員養成講座)の修了式があり、県内寺院所
属八十八名の受講者が東京教区教務所長か
ら修了証と記念品を授与されました。

参加者は熊原博文師の記念法話を聞いた
後、催された懇親会に出席、二年間の思い出
とともに仲間同士打ち解けた時間を過ごし
ました。

当寺から受講された方は左記の五名です。
・伊藤昭代さん ・入月正さん
・酒井昭枝さん ・山本由美子さん
・山根幹雄さん

今後益々の聞法伝道に励まれますよう願
っています。

○お仏具磨き、清掃奉仕
11/2

三連休の初日にもかかわらず、年二回行わ
れるお仏具磨き、清掃に三十余名の方々がご
奉仕されました。

この日は京都から本願寺新報女性記者が
訪れ、当寺壮年会の活動取材したいと来
訪。午前中の奉仕の模様や午後からの婦人会
や壮年会の法座の模様まで熱心にカメラに
収めていました。

○各地台風豪雨被害に義援金を贈る
金、四〇七六五円也(本願寺災害支援係へ)

第三十一回文化講演会では講演会場入り
口に募金箱を設置、来場者に呼びかけを行い
右記の集まった金額を送金しました。

尚ふれあい募金への志にも感謝いたします。
引き続き募金活動を行っています。

○サヘル・ローズさんテレビ出演
*日時：十一月九日(土) 午後一時から
NHK Eテレ(こころの時代) 宗教・人生
「砂浜に咲く薔薇のように」(再放送)

【法要・法座・行事の案内】

◎報恩講法要修行

十一月二十日(水)

夕五時 親鸞さまと音楽のひと時
(バイオリン演奏の調べ)

五時半 初夜勤行(往生禮讃)

六時 法話

七時 おとき接待(あずき粥)

十一月二十一日(木)

朝六時半 晨朝勤行(正信偈)

十一時 日中法要(讚仏偈)

十一時二十分 法話

正午 おとき接待(精進料理)

一時 ご満座法要(正信偈)

一時四十五分 法話

布教使 鎌田宗雲師(滋賀県報恩寺)
講題「親鸞聖人に学ぶ」

○子育てサロン(パンダっ子)

十一月十一日(月) 十一時〜十四時

○教行信証を学ぶ

十一月三十日(土) 二時

○婦人会法座

十二月七日(土) 一時

○門信徒会役員会

十二月七日(土) 三時半

○壮年会法座

十二月十五日(日) 三時

夕方五時半から壮年会・婦人会合同の年末
懇親会を本八幡「はな膳」で開きます。
会費：七千円(男性)、六千円(女性)

【十二月の掲示板のことば】

真の親の慈しみは 子に条件をつけない